

2025年度（令和7年度）事業報告

デイサービスセンター長 宝

1 施設を取り巻く現状と課題

(1) 事業の種類及び利用定員

事業種：通所介護及び地域支援事業

利用定員：31名

契約者数：26名

(2) 県市町村等からの受託、補助事業等

・C型事業（由布市元気アップ教室）

(3) 地域における公益的な取組

・地域の清掃活動として「クリーングリーン作戦」月1回実施

(4) 運営方針

法人理念である「共歩・共笑・共育」のもと、利用者の意思及び人格を尊重し、心身機能の維持向上に努めました。また、本人とご家族の想いに寄り添い、身体的・精神的負担に寄り添えるように努めました。具体的にはご家族の負担を考え、デイサービスでできることはデイサービスで支援を行い、ご自宅での介護が少しでも軽くなるようにするなど、ご家族の想いを尊重した支援をいたしました。

また、介護支援専門員とは利用者のデイサービスでの様子を情報共有し、個々に合った計画と実施ができるようにしました。サービスの中で、体操や機能訓練を通して残存機能の維持向上に努め、高齢になっても毎日生きがいを感じながら日々を送れるよう努めました。

2 施設の実施施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	SNS を使って働く職員や事業所の様子を発信する（達成度 90％）
現状と課題	経営企画室と連携をとり、協力してもらうことで SNS での投稿回数を増やすことができている。
取組状況	法人のインスタ等に載せるため、行事の度に経営企画室の協力のもと撮影をしてもらい、多く投稿してもらうことが出来ました。利用者家族も見えており、楽しみにしているため、今後もたくさん投稿してもらえよう経営企画室と連携を図っていきます。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	チームで動ける組織作り。（達成度 70％）
現状と課題	正規職員を中心としたチーム作成をしていたが、主任・副主任への相談を直接することが多く、チーム内での共有や話し合いができていないことが多い。組織的に動けるよう変化させていく必要がある。
取組状況	正規職員を中心にチームで協力しながら業務を進めることが出来ました。しかし、チーム内で複数の業務を割り振っていたため、責任などが曖昧になり、正規職員のフォローアップ業務が増大する結果となりました。来年度は、それぞれの職員に担当をもう少し細かく振り分ける必要があると考えています。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	働きやすい職場環境作り。（達成度 65％）
現状と課題	職員会議の時間を日中や夕方など、時間をずらして行ってみたが、どうしても参加できない職員がいる。それぞれ思いがあるが、なかなか話す場がなくパートはパート、正規は正規と意見の食い違いが生じてしまっている。
取組状況	入浴支援を午後にし、午前中に会議をおこなうことで参加が難しかった職員も出席できるようになり、意見交換の機会が増えました。しかし、「働きやすい職場環境」で考えると、正規職員と臨時・パート職員間での「業務範囲の認識の齟齬」が表面化し、パート職員の要求事項が過多となり、結果として正規職員の業務を圧迫する状況が生じてしまいました。来年度は職能に応じた適切な業務配分の再定義と指導体制の確立を行っていきます。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	1年に1回はリフレッシュ休暇を取得する。(達成度 40%)
現状と課題	パート職員は、お盆やお正月にまとまった休みが取得できている。正規・臨時職員は月に1~2日の年休は取れているが、まとまった休みは取れていない。取得するにあたり、どうしても周りの職員への申し訳なさが働いてしまう。
取組状況	年休の取得は平均10日以上取得することができたが、職員数の減少により、業務体制の調整が難しく、連休などのリフレッシュ休暇は取得することができなかった。

実施施策	職員を対象に調理実習を行う。(達成度 0%)
現状と課題	男性職員や一人暮らしの職員も多く、なかなか自宅で料理を作っていない。簡単に作れ、バランスを考えられた料理のレシピを知りたい。という意見がある。
取組状況	部門会議の中で栄養士に頼みたいというところまでは話しが進んでいたが、取り掛かりが遅く、計画が立てられないまま最終的には実施することが出来なかった。

(2)利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	サービスの質の向上 (達成度 70%)
現状と課題	第三者評価を受けたことがなく、現在のサービスがどのように評価されるのか分からない。努力すべきところ、良いところを明らかにし職員で共有、改善していく必要がある。
取組状況	9月に第三者評価を受診しました。評価報告書によると全体的に悪い評価ではありませんでしたが、いくつかの課題点が明確になり、今後のサービス改善に向けた取り組みの方向性が見えてきました。引き続き課題点の改善に努め、より質の高いサービス提供を目指します。

実施施策	インカムの導入と活用 (100%)
現状と課題	広いフロアで、助人がほしくても声が届かない。また、パート職員が多く、出勤日数が少ないと情報もつかみにくい状況。誰に聞いた方がいいのかが分からず「知らなかった」となる場合がある。 令和6年2月よりインカムが導入され運用開始となる。

取組状況	インカムを効果的に活用できており、職員間の連携がスムーズになりました。その結果、業務の効率が大きく向上し、利用者対応も迅速に行えるようになっていきます。今後も引き続き活用方法の工夫を行い、さらなる業務改善を目指します。
------	---

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	サービス計画に個別サービスを組み込み実施する。(達成度 65%)
現状と課題	個人の身体的な状況に応じたサービスを行うことは今までも行ってきたが、個人的な外出支援（買い物や食事、お出かけ等）のサービスまではなかなか実施することができていない。
取組状況	一部では個別サービスの実施ができましたが、すべての利用者に対して十分な個別支援を行うことが出来ませんでした。今後は職員が一人ずつ担当を付けていく予定なので、担当がアセスメントを行い、その方の希望や家族の希望に沿った具体的な支援計画を作成し、実施していきます。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	C型事業の継続（達成度 80%）
現状と課題	C型の利用者の数は多くないが、口コミ等で途切れることなく利用が続いている。月平均3～4名。
取組の方向性	C型事業については、参加人数に月ごとのバラつきが見られます。多い月と参加者がゼロの月もある状況です。できる限り平均的な人数で安定的に実施していきたいと考えていますが、市や地域包括支援センターとの調整が必要であること、また、利用者からの応募がなければ実施が困難であるという課題がありますが、C型利用者がいずれデイサービスに繋がるパターンもあるため、今後も継続して行っています。

実施施策	地域の支援学校・小学校の児童との交流。(達成度 90%)
現状と課題	支援学校の児童とは交流をしており、高齢者もとても喜んでいる。以前は阿南小学校とも交流を行っていたが、コロナ流行から交流がなくなってしまっている。
取組状況	支援学校の4.5.6年生や中等部の生徒さんとの交流ができました。利用者も楽しみながらレクリエーションに参加する様子が見られました。今後も地域との繋がりを大切にしながら、引き続き交流の機会を広げていけるよう取り組んでいきたいと考えています。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	居宅介護支援事業所の介護支援専門員に対する施設説明会を開催する。(達成度 40%)
現状と課題	担当者会議などでケアマネが施設に来ることはよくあるが、施設内の見学はしたことがない。施設の作りなどは知らないケアマネが多い。
取組状況	説明会の案内を配布し参加を呼びかけましたが、ケアマネジャーが日常業務で多忙であることに加え、既に当施設の内容をある程度把握しているとの声もあり、説明会を受けたいというケアマネジャーが出てきませんでした。今後は説明会という形式にこだわらず、相手側の業務状況に配慮した形でのアプローチを考えたいと思っています。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	外部の新規利用者増を目指す。(達成度 50%)
現状と課題	定員 31 名であり、状況によっては定員オーバーとなる恐れがあったため、外部の新規利用者を受け入れられない状況があった。
取組状況	当初はケアマネジャーの働きかけもあり、7 月までは徐々に新規利用者の増加が見られました。しかし、その後、既存の利用者の入院や他施設への移転や死亡により、利用者が減少し、新たな利用者の獲得も思うように進みませんでした。今後も引き続き、地域やケアマネジャーとの関係性を深めながら新規利用者獲得に向けた取り組みを継続していきます。

実施施策	一部の職員の勤務時間変更。(達成度 80%)
現状と課題	遠い家の利用者からお迎えに行っているが、数名を乗せながら来るため、9 時までに到着できず、利用時間を 9 時半からスタートにしている利用者が数名いる。利用時間を 9 時スタートに変更することでサービス時間が増え、収益増に繋がる。
取組状況	対象職員の勤務時間を変更したことで、デイサービスの開始時間を全員 9 時に設定できるようになりました。これにより、利用者に対してより長い時間のサービス提供が可能となり、結果通してサービスの質向上とともに、事業所の収益増にも繋がっています。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	施設内での連携強化を行う。(達成度 80%)
現状と課題	特にパート職員は有料老人ホームゆふに支援に入ることが少なく情報が把握できていないことが多い。有料老人ホームに利用者が数名残る「ゆふ楽教室」を4月より開始する予定であるため、デイサービス長宝との連絡をスムーズに行う必要がある。
取組状況	LINE WORKS の導入・運用を開始したほか、インカムを導入することで職員間の連絡・報告・相談がスムーズになり、以前と比較して施設内の連携は着実に強化されてきています。特にリアルタイムでの情報共有が可能になったことで、業務の効率化や対応の迅速化に繋がっています。

3 実績利用率

(%)

事業名	4月	5月	6月	7月	8月	9月
通所介護	76.7%	75.4%	77.7%	76.7%	74.5%	75.4%
C型事業	33.0%	33.0%	100%	100%	100%	16.0%

事業名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
通所介護	72.9%	67.0%	71.6%	69.6%	65.4%	67.0%	72.4%
C型事業	0%	0%	0%	0%	0%	33.0%	34.5%

4 固定資産物品購入物

(単位:千円)

名 称	購入業者	執行額	購入日
ジェット洗浄機			未購入
草刈り機			未購入
耕運機			未購入

5 修繕実施状況(大規模修繕を除く)

(単位:千円)

名 称	請負業者	執行額	完了日
温泉ポンプ取替	(株)熊野建設	4 9 5	令和7年4月1日
エアコン修理	(株)エアテック九州	2 3	令和7年5月27日
浄化槽ポンプ修理	(有)庄内衛生社	1 3 3	令和7年10月3日
連絡通路壁面修理	コージーデザイン	7 4	令和8年2月27日
エレベーター通路改修工事	(株)熊野建設	5 3 3	令和8年3月31日
エアコン修理			未実施

大規模修繕実施状況

(単位 : 千円)

名 称	請負業者	執行額	完了日
なし			